

## 高血圧

小林クリニック 院長  
小林 信一 先生

「高血圧」という病名は、ごくありふれた病名でありながら半面、分かりにくい部分もたくさんあります。そもそも、なぜ高血圧は治療が必要なのでしょう？血圧はその時の状況によって絶えず変動しています。ですから、どの時をとって「高血圧」と診断するかは、実は医師にとっても判断に迷う場面が少なくありません。しかし、毎日24時間リラックスして生活している人は誰もいません。老若男女、古今東西を問わず、ストレスや環境変化を受けながら活動しているのです。診察室や健康診断会場などで高血圧の状態の人は、仕事中や運転中も高血圧の状態になりやすいと考えられます。高血圧のメカニズムを考えてみましょう。

心臓から送り出された血液に乗って酸素や栄養分が体内の各臓器に運搬され、二酸化炭素や老廃物ば運び戻されてきます。詳しく考えると？ポンプである心臓の内部圧力変化？動脈血圧？各臓器内部の圧力？静脈血圧—といったように、循環器系の各部位でそれぞれ圧力を測定すべきなのでしょう。その中でたまたま動脈の血圧測定が最も簡便にできることから、循環器系の状態を推測する方法として定着したわけです。では、それぞれの立場から見てみましょう。

心臓の都合で言えば、血圧は低めの方が仕事量が少なくて済みます。血管の都合でも、低めの方がパイプの傷みが少なくて長持ちします。臓器の都合では、しっかり酸素と栄養が欲しいので、ある程度の血圧を保持してほしいと要求します。特に脳は心臓より高い位置にあるので、あまり血圧が低いと血液が届きません。しかし、逆に高すぎる血圧が続いて脳内の血管が破れてしまうと大問題です。ですから、ちょうど良い血圧を維持するのが肝要なのです。その上、動脈硬化は目詰まりや裂け目の原因になるので話が一層ややこしくなります。高血圧治療は一時的な数字の高低だけでなく、全体的な視点で考えられていると理解しましょう。